

## えっ、木育を

園長 小島 澄人

石川県の高校から電話がありました。幼稚園に生徒が来て子どもたちに「木育」の話と実践をしたいとのこと。木育という言葉に懐かしさを感じました。幼稚園に勤め始めた頃、木育、に幼児教育の目標を掲げました。「どんな遊具よりも、木、一本でも植えよう」、そして植えた木が、今の幼稚園のあちこちに大きく育っています。桜、きんもくせい、とちのき、百日紅、タイサンボク、モミジ、グミ、マテバシイ、クヌギなどたくさん植えました。更には、たくさんの果樹を植え、子どもたちが木々の間を走り回り、木陰に憩い、直に樹から果物を取って食べる、すごく大事だと思っていました。それから柿、柑橘類、びわ、ブルーベリー、イチジク、たくさん植えました。就職見学に来た学生に、木から柿をもいで服でこすり、皮ごと食べて見せ、それを見て就職した人もいました。

木育とは言わなくなりましたが、子どもたちが当たり前のように裏山で果物の育ちを見、走り回っている姿はいいですね。幼稚園に育っている、たくさんの木の枝を切り取り、輪きりにして、制作展で展示していました。幼稚園最後の日に、ご褒美メダルとして、木のわっかに柿の実の焼き印をして、一人一人に首にかけてあげるのもその「木育」の一環です。

山や森があちこちにあり、自然探検村を作ってきたのも「木育」の一環です。タケノコほりから、木の実を採ったり、拾ったり、小枝を使っての制作活動、葉っぱを採ったり、かぶったり、冠にして遊んだり、秋になると素敵に紅葉した葉をいろいろ使っています。木の実には銀杏をいただいたり、無患子のようにシャボン玉にして遊んだり、椎の実などは蒸して食べたりしています。

山を使っての活動では山遊びは勿論のこと、山探検、時には草木染めにも挑戦してきました。桜の枝染はピンク色に染まります。勿論、玉ねぎや草染、泥染、にも挑戦してきました。30年前にはクリスマス前に、皆さんに「松ぼっくり」を集めてもらって、2メートル余りの「松ぼっくりツリー」を作りました。春には、柿の葉をてんぷらにして食べてみたり、柿の葉や栗の葉を煎じてお茶にして飲んだりしました。さやえんどうやくまざさなど、たくさん飲んだりしています。

裏山や園庭にたくさんの木の遊具もありましたが、木は朽ちる時が来ますので、なくなったりしますので、残念ですが、たくさん作ってきました。手作りで木育教育と思い、木を選びました。鉄の遊具が最近増えてきたかな、と危惧しています。

自然があつての活動、来年度はもっともっと自然をいかし、使い、その中で過ごす時間を作っていきたいと思います。食農食育にも力を入れ、保護者も巻き込んでの企画もできたらいいな。Tanosimidesu。